

工科大祭



「第10回 工科大祭」

CONTENTS

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1 第10回工科大祭</p> <p>2 「第10回工科大祭」大いに盛り上がる</p> <p>3 スポーツ大会で熱戦を展開
科学の祭典</p> <p>4 ロボカップUSオープン2005で準優勝</p> <p>5 建築学科、「住宅設計コンペ」「学内福利施設設計コンペ」など4つのコンペ作品展示会を開催!</p> | <p>6 特別企画 座談会「はたして、コンペ入賞にコツはあるのか!?!」</p> <p>7 平成17年度公開講座始まる</p> <p>8 卒業式・修了式を挙行、214名が新たな門出へ
新入生299名が仲間入りー平成17年度入学式</p> <p>9 平成16年度合同会社説明会
平成16年度卒業生就職状況</p> <p>10 卒業生の職場を訪ねて⑦</p> | <p>村上教授の論文が入賞
特殊無線技士の資格が取得可能に</p> <p>11 インド洋大津波災害の影響</p> <p>12 廃プラスチックからクリーンな炭化水素油を生産
新任教員のお知らせ
オープンキャンパスのご案内
編集後記</p> |
|--|---|--|

「第10回 工科大祭」大いに盛り上がる



記念すべき第10回目の“工科大祭”と“青少年のための科学の祭典 柏崎刈羽大会”が6月4日(土)に開催されました。当日は雨が心配されましたが、工科大祭実行委員の願いが通じたのか、天気はなんとか持ちこたえてくれ、来場者数は2,000人を超える大盛況となりました。

学内には多数の模擬店が出店され、昼時には飲食関係の模擬店に長蛇の列ができていました。また、今人気の摩邪、東京ダイナマイト、磁石の3組のタレントを迎えて行なわれたお笑いライブでは、講堂に入りきらないほどたくさんの方が詰めかけ、会場を爆笑の渦に巻き込んでいました。

一方、各学科とも研究成果の展示や実演を行ない、それぞれの特徴をアピールしました。なかでも、建築学科の設計コンペは新聞にも取り上げられたこともあり、多

くの市民や卒業生が学生たちの力作に見入り、気に入った作品に投票していました。

また、新潟放送(BSN)などで放送されるテレビ番組「新潟の私立大学そこが知りたい! 2005」の収録も行なわれ、学園祭実行委員の水野幸恵さん(物質生物システム工学科2年・名古屋市立緑高校出身)が、初めてとは思えない堂々としたレポーターぶりを発揮していました。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/kokadaisai05.html>]

工科大祭を終えて

工科大祭実行委員長 小松 実成

(物質生物システム工学科3年・新潟県立糸魚川高校出身)

去年の7月ごろに委員長になり、工科大祭のための下準備を進めてきました。私は去年の学祭よりも盛大なものにしようと、目標を立てていました。そのために、スポーツ大会を工科大祭と同時に開催し、イベントを立て続けに行うように時間調整しました。これらのことは、私が知る範囲では初めてのことで、当日の状態がまったく想像できませんでしたが、今年の実行委員はベテランぞろいだったので、何とかなるだろうと思っていました。

そして当日。午前中から予想を上回る来学者数に驚きました。そして、お笑いライブでは開場30分前から行列ができ、その行列の長いこと。自分の読みの甘さを後悔しつつ、観客席を増やしました。それでも立ち見が出るくらい大盛況でした。そのほかのイベントも滞り無く進み、事故も起こらず学祭が終わって安心しました。

一番の目標だった『去年の工科大祭を超える』が達成できたかどうかは分かりませんが、パンフレットが余ることもなく、模擬店や講堂前には行列ができていた当日の状態を思い浮かべると、とてもよい学祭だったと思います。私ひとりではここまでできませんでした。たくさん働いてくれた実行委員の皆、ありがとうございます。そしてお疲れ様でした。裏方に徹していただいた小野寺先生や、事務の方々にも感謝しています。



スポーツ大会で熱戦を展開

6月3日(金)、6月4日(土)の2日間にわたってスポーツ大会が開催され、フットサルと3on3で熱戦が繰り広げられました。フットサルは12チームが参加し、工科大祭に遊びに来ていたチビっ子たちの応援の中、機械制御シス

テム工学科2・3年のENJOYED SINCE 1913が、3on3は7チームが参加し、建築学科3年のUNIQLONがそれぞれ優勝しました。



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/sports05.html>〕

科学の祭典

柏崎・刈羽地域の小学生に科学を身近に感じてもらうと、市立教育センターが主催し、本学が共催、会場の提供を行っていました。開始前から多くの家族連れが訪れ「超低温の世界を感じよう」や「アイスクリームだよ！

全員集合」などのブースで実験を楽しみました。

実験ブースでは、本学の教員や学生も子供たちの指導にあたりました。普段は教わることが多い学生にとっては、良い経験になったのではないのでしょうか。



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/kagaku05.html>〕

ロボカップUSオープン2005で準優勝



ロボット研究部
機械制御システム工学科 3年
佐藤 仁
(新潟県立柏崎工業高校出身)

5月8日(日)から10日(火)にアメリカ・ジョージア州のジョージア工科大学を会場とし、ロボカップUSオープン2005が開催されました。私たちチーム「NIIT-BLUE」は、レスキューロボットの競技に大金研究室とロボット研究部とが共同でロボットを開発し、参加しました。まず、レスキューロボットというものとは地震などの災害地で、人間による捜索活動では二次災害が心配されるような状況でロボットを役立てようというものです。そのロボットの研究、開発を促進するためにロボカップレスキューという競技会があります。

ロボカップレスキューとは、地震などの大規模災害地を模した会場で制限時間内に、レスキューロボットがより多くの被災者に似せたダミー人形を見つけ出し、得点を競う競技です。ダミー人形には体の動き、声、体熱、呼吸などが発せられており、その被災者の状況を詳しく被災者確認用紙に記入することで得点が高くなります。そして災害地の通路、障害物の状態、被災者の位置などの地図をより細かく正確に作ることもよっても得点が上がります。しかし、この時ロボットの操縦者は会場を直接見ることができません。しかも会場内は一競技ごとに模様替えされ、操縦者にとっては全くの未知の世界になるわけです。操縦者はロボットに搭載されたカメラとセ

ンサの情報だけを頼りに被災者を捜索しなければなりません。

今回の大会は1日目に自律型と操縦型とを分け、部門別トップを決め、2日目は全体の予選をし、3日目に予選の上位4チームが決勝に進みました。私達のチームは予選を2位で通過し、決勝に進出しました。決勝では、他のチームが階段を登れなかったのに対し、私達のチームだけが階段を登れたので捜索範囲を広げられ、たくさんの被災者のダミーを発見することができ、2位の成績を得ることができました。しかし、階段を上るため操作が複雑になり、操縦者の負担は大きいものだったと思います。走破性の高さと操縦し易さの両立は今後の課題になると思います。他の国のチームは走破性よりもカメラとセンサ情報の処理に重点を置いていました。ロボットの製作では、私は今まで車体製作を担当していました。車体の構成ができるまでにはかなりの時間がかかりました。ここまでロボットを完成させるには、たくさんの苦勞がありました。部員一人ひとりの努力や工場の技師の方々、先輩達の協力があったと思います。大会では車体の整備をしましたが、部品の交換などに時間がかかったので整備性を良くしなければと感じました。国内の大会と違い、外国の人とのコミュニケーションや大会のルール説明のときに話が解らないことがあったので英語を勉強する必要性を非常に感じました。今回、大会出場を通して学ぶことが多かったと思います。

最後に、今回のロボカップUSオープンの実績が認められ、7月13日(水)～7月17日(日)に大阪で行われるロボカップの世界大会に出場できることになりました。世界大会に向けて、アメリカ大会での反省をもとにロボットの改良をしています。世界大会では、他のチームの技術を学び、競技では実力が発揮できるよう頑張りたいです。



「NIIT-BLUE」のメンバー

後列左から

藤田陽介、笠原衛、塩入和也、小林隆浩

前列左から

小畑卓也、佐藤仁



[関連URL <http://lab.ooga.net/blue/>]

建築学科、「住宅設計コンペ」「学内福利施設設計コンペ」 など4つのコンペ作品展示会を開催！ 私たち建築学科の学生メンバーがレポートします！

学生たち一人ひとりが考え、作り上げる工科大祭！今回、建築学科では、3年をはじめとする洗練されたセンスの学生たちによる「福利施設設計コンペティション」をメインディッシュに、1年の創意工夫、友情と汗「座るもの作品展」、新たな視野と自らの腕を磨く「スケッチコンペティション」、毎回毎回、回を重ねるごとにレベルがUPしていく2年対象の「第4回住宅設計コンペティション」を行いました。そしてコンペの実行委員会を2年有志で結成し、私、渡邊が委員長を務めさせていただきました。



「福利施設設計コンペティション」は本学将来計画委員会と建築学科の共催で、学内に学生の休憩場所をもつ施設を5億円程度、延床2000㎡程度で設計するものです。学内教職員と学生全員に実施した施設に関するアンケート結果に基づいて、11の図面と模型がズバリと並びました。

「座るもの作品展」では、毎年1年が大学に入学し新しい仲間作りを行うひとつの過程として位置づけられています。そして、座るものを作ることにより人の大きさ、物の大きさを認識してもらおうというものです。



◆阿部さんチームによる、学内の自然にたすむ美術館的建物構想（左上）。こんなギャラリースペースがあったら遠慮なく学内コンペを開催できそうデス（笑）。その他、SPAを作る計画なども入賞していましたが、実現性の点ではどうなのでしょう？そして、建築4年の有志が、我がシンボルタワーをモチーフにしたアトリウムを大学の顔とすべく計画（中央下）。圧倒的な設計センスと模型技術でギャラリーの心をわしづかみにして、また建物内外の気流や温度まで解いた力量は、さすが4年の風格と思いました。

「スケッチコンペティション」は今年からの新しい催しで、建物の描き方を学ぼうというものです。目に見えるものをそのまま描くだけでなく、大胆な構図や大学の未来像に迫ったものなど、工夫を凝らしたものが多くあったように思えました。

そして、わが学年に課された「第4回住宅設計コンペティション」では、長岡市内の実際の土地に施主さん5人家族（ご夫妻+3人の息子さん）の要望を踏まえた提案を行いました。ただ設計するだけでなく、会場に来ていただいた方に自分の作品へ投票してもらおうプレゼンも重要となります。

結果、出品された一つひとつの作品はどれも個性輝くものばかりでした。我々、建築家の卵が、いずれ羽ばた

く日へ向かって羽音を大いに聞かせてくれたものとなったと思います。



◆「座るもの作品展」では制作グループによるプレゼンテーションが行われました。昨年以上に手の込んだ技術によるハイレベルな作品が並び激戦。この戦いを制したのは右上の長井君チームによる作品名「ドテチン危機一髪」（なぜギャートルズなのか、やや意味不明です）。イスのほか小物入れ付テーブルになったり、100Vコンセントに差し込むと行燈としても機能したり、という大変なスグレモノでした。

また、今回このコンペティションを行うに当たって活躍してくれた実行委員のメンバーには頭の下がる思いです。ポスター作りから始まり、学外への広報活動、展示会場設営などの地道な仕事を、自分の作品を作る時間を削ってまでこなしていただきました（私もですが^^;）本当に感謝、感謝です。実際、実行委員としてもっと工夫できたかも知れないと思います。いろいろと事を進めるに当たって時間に追われ私達らしきのある展示会になったかな、と考えたりしています。

最後に、後輩諸君へ！いずれ誰かが我々の活動を引き継ぐこととなります。そのときには、是非自分達らしい新しい展示会を企画してみしてほしい、と思います。もちろん、経験者としてアドバイスしますよ！いやな役が巡ってきても、逃げないでね！



◆特にポスター制作のセンスが抜群なものがそろったのが今回の住宅コンペの特徴です。最優秀賞に輝いた井村さんの作品は、黒地に白ペンを使ったり四つ葉のクローバーを貼り付けたりなど、仕上がりのおしゃれさで圧倒的な得票数でした。また、タマゴ形の家や、5つの柱をモチーフにした家など、建築家絶賛の作品も多々ありましたが、何より、施主さんに喜んでいたのはうれしい限りデス！

建築学科2年 渡邊 健太（私立北越高校出身）

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/compe2005/compe.htm>】

特別企画 座談会

「はたして、コンペ入賞にコツはあるのか!?!」



「第4回住宅設計コンペティション」特別賞受賞
建築学科2年 千羽健一さん
(新潟県立見附高校出身)



「風景スケッチ作品展」「座るもの作品展」共に最優秀賞受賞
建築学科1年 長井和樹さん
(新潟県立長岡工業高校出身)

司会：展示会、大盛況でしたね。で、千羽君、何やら冷や汗モノの出来事があったとか？

千羽：展示会のときに、自分の図面を見てくれている子供づれのお母さんがいらしたんです。で、「よっ！投票してもらえちゃうチャンス！」と思って、一生懸命プランを説明したんですよ。「奥さんは夜中にドラマを見るのがユイイツの趣味らしいんですよ」とか「子供さん3人、相当にワンパクみたいなんですよね」とか。

井村：そういうの、投票してもらえちゃうチャンスだね～。
千羽：「ふーん、ふんぶん」で聞いてくれていたので喜んでいただけけど…なんと、表彰式のとき「施主の方が来場されています。一言どうぞ！」で出てきたのがそのお母さん!!!穴があいたら入りたい、っていうのはあーいうことを言うんだな。

阿部：(爆笑) といえば千羽くんが説明しているときにちっちゃい子が3人走り回ってたね(笑)。でも、施主の方が「あの学生さんに」って選んでくれた「特別賞」なんでしょ。よかったね。

千羽：夜寝ないでニキビ出まくりで作った甲斐がありましたよ。周辺住宅に配慮したとか、家事動線を一直線にしたとか、ボクの匠のセンスと情熱を理解していただけたんだと思います！

司会：井村さんの作品はどんなものだったんですか。
井村：私のライフステージの変化に対応させるところに特に気を遣った、というプランです。3年後にはご長男が中学生になるということだったので。施主さんのご要望が20項目もあって、なかなかバランス良くまとまらなかった。苦しかったのは、締め切り3日前に「やっぱり納得いかない」って破り捨てて、一から書き直したところですよ。



長井：さっすが先輩。「こだわり」があれば完成度の高い作品ができる、というのはその通りだと思いますよ。

阿部：長井君たちの作ったイスもさあ、デザインがきれいだったし、ライトが光ったりテーブルに変身したりして感動的だったよ。得票数も群を抜いていたしね。

長井：友達と5人でこのイスを作ったんですけど、これは楽しかった。授業の一環というのは忘れて没頭しましたね。もともとモノを作ることは好きなんです。凝ったデザインを木工で作るこむ作業がひたすら続いて、寸法が合わずに大変なこともありましたけど、できあがったものには大満足です。同時並行で「風景スケッチをやれ」には大変すぎてちょっとキレかけましたが(笑)、でも絵は好きなんです。来年もこの企画があるんなら、新入生に負けないものを作ってV2を狙いますよ。

司会：阿部さん、グループ設計の福祉施設の模型も素晴らしい作品ですね。

阿部：学生が休憩できる施設を大学が本気で建てようとしている、といううわさを聞いたときは「へえ～、早く出来てくれないかな」ぐらいの感じでした。まさか、自分のCADの授業で「それを設計してくれ」と言われるとは思わなかった(笑)。でも、実際に建設されるかもしれない、ということだったので身震



「第4回住宅設計コンペティション」最優秀賞受賞
建築学科2年 井村沙哉子さん
(新潟県立新津高校出身)



「本学の福祉施設設計コンペティション」最優秀賞受賞
建築学科3年 阿部直美さん
(新潟県立五泉高校出身)

いがしました。
千羽：それ、うらやましい課題ですよ。普通そういう設計課題はありえないし、来年のボクのCADの授業じゃ、もう出てきそうもないですよ。あ～、うらやまし～(笑)。

阿部：でも、実際取り掛かってみると、グループ内で会話が進まなかったり、設計の技術がなかったりで落ち込んだり。少しずつ形になってきたときにはうれしくてしょうがなかった。締め切り間際には大学に泊り込んだりして、ホント久しぶりに熱いものを感じました。

井村：ジムがあったり、多目的ホールがあったり、大きなテラスがあったり。外観も山奥の美術館風で素敵な建物ですよ。本当に建ったら、私たち癒されますよね。

長井：うん、先輩のデザインが採用されることを祈ってますよ。
司会：最後になりましたが、これから建築を目指している高校生や後輩たちにメッセージを。

千羽：制作活動は、笑顔を忘れないで楽しみながら取り組むと良いです。是非一緒に建築デザインを楽しみましょう！自分の作品に対する情熱と誇りで勝負しましょう！

長井：スケッチのために土曜日を含めて4日間、イスのために3日間、

大学に残って作業をしていました。大変ですが、ここには自分のデザイン力をアピールできる機会がたくさんあります。「楽しく、こだわった、美しい作品」をボクに見せてください!

井村：先生方、そして4年や大学院の先輩方とも気楽に話ができる雰囲気があって、本当に良かったと思います。何かを作るときは、とにかくたくさんの人と話すことでインスピレーションが沸きます。是非試してみてください!

阿部：授業の課題が大変!という考え方じゃなくて、「どうせならこの設計、楽しんじゃおう」と思うのがコツですね。イヤイヤ作ったものか、面白くなって作ったものかは、見ている人にダイレクトに伝わっちゃう。あと、グループ仲間とのコミュニケーションは「そんなの、ダメ!」じゃなくて「こんなの、どう?」という雰囲気が進めるのがポイントです!

司会：ありがとうございました。

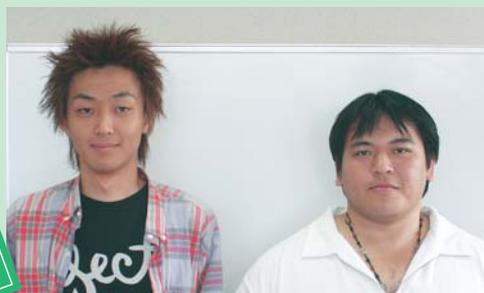
(司会 建築学科 教授 飯野秋成)



「工学基礎ゼミⅠ」ティーチングアシスタント
建築学科 4年

(左から) 志田貴之さん (新潟県立五泉高校出身)
竹節俊介さん (長野県立中野実業高校出身)
大鷹宏之さん (新潟県立村松高校出身)

♠「座るもの」を制作費5000円以内で作れ、というシバリは少しきつかったようです。「発泡スチロールってやたら高いです」とか「ほしい材料が売ってません」とかで泣きついてきたり、材料集めのためゴミ拾いに明け暮れる学生も始めたり...3人で毎日毎日1年生から相談を受けていたような気がします。3人ともはじめてのティーチングアシスタントの体験でしたが、「造ることのおもしろさ」と「使う人への温かい気持ちの大切さ」が伝われば、と必死でした。少ない制作時間の中で立派な作品が多数できあがったときは、やはりグッと来るものがありましたね。いい経験が出来たと思います。



「CAD演習Ⅱ」ティーチングアシスタント
自然・社会環境システム工学専攻

(左から) 加藤雅士さん (修士1年) (静岡県立沼津城北高校出身)
張 建保さん (修士2年) (中央工学校出身)

♣「学内福利施設設計」の初期段階では、各グループともベースをつかめなくて苦労していたようでした。こちらもアドバイスする側としてどう対応していいのかが試行錯誤していましたが、アドバイスを繰り返すうちにいつか各グループともものすごい集中力になって、完成度の高い建築模型ができました。このときは嬉しかったですね。皆、コンペで賞を取るのが当面の目標だったのかもしれませんが、設計仲間をつくる契機にもなったのではないのでしょうか。卒業後同じメンバーで事務所を結成することになるかもしれません(笑)、大いに夢を広がってもらえたのではないかと思います。

平成17年度公開講座始まる

6月9日(木)から平成17年度の公開講座が始まりました。

★技術講座・実験編・前期「遺伝子操作に挑戦しよう!」

講師：物質生物システム工学科 小野寺 正幸 助教授、
竹園 恵 助教授

6月9日～30日 (全4回)



【今後の公開講座】

★技術講座・講義編「よりよい生活を目指して」

一新潟県立看護大学との提携プログラムー
9月22日～10月20日 (全5回)

★教養講座「“アメリカを読む”～人種、ジェンダー、そして文学～」

講師：教養系 半藤 正夫 教授
9月27日～10月25日 (全5回)

★技術講座・実験編・後期「材料の特異な性質と材料試験」

講師：機械制御システム工学科 村山 洋之介 教授、
山崎 泰広 助教授

10月17日～11月7日 (全4回)

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/guide/kokai/kokai2005/kokai05.htm>】

卒業式・修了式を挙行、214名が新たな門出へ

第7回工学部卒業式・第5回大学院工学研究科修了式が3月20日(日)、本学講堂において挙行され、学部199名、大学院15名の計214名が晴れの日を迎えました。

初めに丹野頼元学長から、各学科・専攻の代表者に卒業・修了証書が手渡されました。続いて、この3月で任期満了となる丹野学長から「わが国がこれから生き残る道は、高い技術力しかありません。高い技術力を養うために、先端技術に関する知識の修得に絶えず励み、また基礎学力のリフレッシュに努力してください」と、はなむけの言葉が贈られました。

ご来賓の祝辞に続き、卒業生・修了生の代表が答辞を行いました。学部代表の井倉将人さん(物質生物システム工学科)は、「新潟工科大学で培った知識や技術、そ

して弛まぬ努力を忘れることなく、自分たちの可能性を信じて邁進していく所存です」と力強く述べました。また、本学部卒業生として初の博士後期課程修了生となる塚本健二さんは、「この大学院で得た貴重な経験を職務に遺憾なく発揮し、本学の修了生としての誇りを持ち、本学の輝かしい歴史を作っていくことを確信しています」と抱負を語りました。

会場を柏崎市民プラザに移して行われた祝賀会では、卒業生・修了生たちは一転してリラックスした雰囲気の中、研究に励んだ仲間たちや、お世話になった先生方との歓談で楽しいひとときを過ごしました。



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2004/sotugyo16.html>,
<http://www.niit.ac.jp/news/2004/sotugyo-shukugakai16.html>〕

新入生299名が仲間入り—平成17年度入学式

第11回工学部・第7回大学院工学研究科入学式が4月5日(火)本学講堂で行われ、学部280名(3年次編入学生6名を含む)、大学院博士前期(修士)課程17名、同後期課程2名の総勢299名が、新潟工科大学生としての新たなキャンパスライフをスタートさせました。

布村成具新学長は式辞で「『健全なる精神は健全なる身体に宿る』と言うのは時代と場所を越えた真理です。健康は幸福への必要条件です。健康に十分注意し、『夢と希望』を大切にして、常に前進することを心から期待します」と呼びかけました。

これに対して、新入生を代表して物質生物システム工学科の増田琢馬さん(新潟県立長岡工業高校出身)が「工科大生としての自覚を持ち、目標に向かって自己を磨き、努力します」と、大学院代表として自然・社会環境システム工学専攻の吉田秀輝さんが「充実した研究施設、環境を生かし、産業界をリードする技術者になるよう努めていきます」とそれぞれ誓いの言葉を述べました。

午後からは各学科ごとにガイダンスを行い、助言教員の案内により学内と学科の施設を見学して回りました。



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/nyugaku05.htm>〕

平成16年度合同会社説明会



平成18年3月卒業見込の学生を対象とした合同会社説明会が、2月15日(火)、16日(水)の2日間、本学の講堂で行われました。

今回の参加企業数は、15日54社、16日53社の計107社で過去最高となり、主役である学生は15日に175名、16日に163名が参加しました。所狭しと並んだブースでは熱の入った説明や学生との質問の応酬が行われ、大変にぎやかなものとなりました。ここ数年参加希望企業が増加しており、企業の採用意欲の高さを物語っています。

企業側からは「真剣さが伝わってきた」「就職への意

識が高かった」という感想が多く聞かれましたが、その一方で「事前に会社概要程度は調べてきてほしい」「もっと多くの学生にブースを訪問してほしい」との意見をいただきました。

この合同会社説明会での縁により就職先が決まる学生も少なくありません。企業数の増加傾向は今後も続く予想されますので、日数の増加や時間の延長など、企業と学生との出会いの場として、より有効な方法を検討していきます。

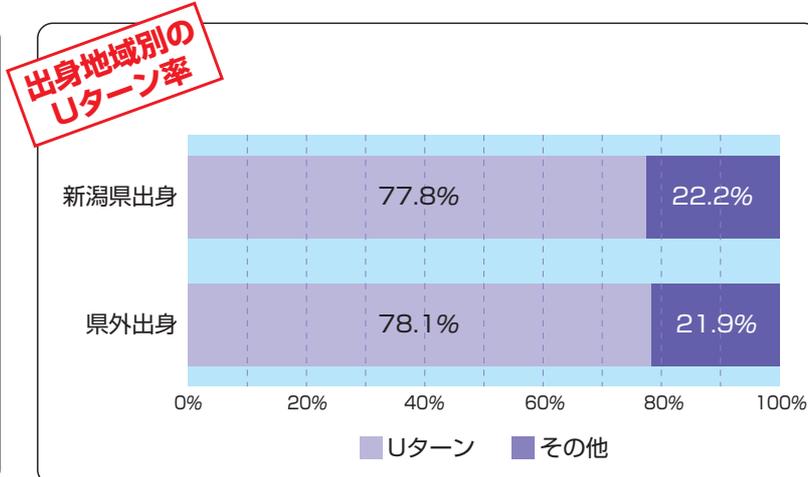
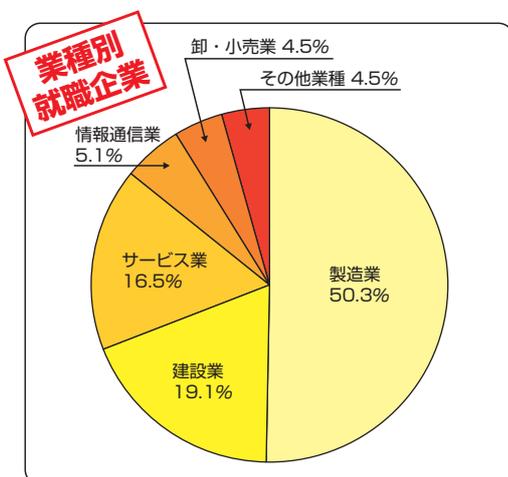


平成16年度卒業生就職状況

平成16年度の本学就職希望者は、卒業生の85.4%と全国平均である66.3%に比べ非常に高く、内定率は92.4%と第一期卒業生から毎年9割を超え順調に推移しています。求人状況も好調で、求人企業数は1,091社と前年度から引き続き増加傾向にあります。関東圏の伸びはもちろん、新潟県内の求人も確実に伸びてきています。しかし、引き続き厳選採用が続いているため、求人数の増加が就職活動の容易さには繋がっておらず、企業の求める人物像

を満たしていない学生は容赦なく不採用となっていました。

平成17年度についても求人数は拡大すると考えられますが、厳選採用の傾向は継続される見込みです。近年は、日頃の学業評価はもちろん、クラブや地域との交流、ボランティア等、何かに打ち込んだ経験や成果が選考において高く評価されているようです。本学でも低学年からガイダンスを実施し、明確な将来像を持ち、何か誇れるものを身につけるよう指導しています。



卒業生の職場を訪ねて⑦



株式会社トライテック

高橋正樹さん
(情報電子工学科2001年3月卒業)

今回は柏崎市藤井にある株式会社トライテックに勤める高橋正樹さんを訪ねました。

・・・現在どのような仕事をしていますか。会社の紹介もお願いします。

高橋：会社ではカメラ撮像技術、画像処理技術を使って製品の傷や基板パターン不良を検出するシステムなどを手がけています。工科大からの卒業生も何人か勤めています。自分は主に基板設計、回路設計を行っています。

・・・現在の仕事の面白さはどんなところですか。逆につらいところとか。

高橋：プロジェクト全体に関わることができるため達成感があります。反面、システムの性能に対する責任が明確であることで検討・設計の段階でミスをしないう神経を使う仕事です。

・・・Uターンで戻ってきたとのことですが。

高橋：以前の職場は神奈川県にあって、シミュレーション上でVLSIの設計検証に従事していました。実際に"モノ"を作る仕事がしたいと思うようになり、転職を考えました。希望場所としては、地元柏崎であることが大きなウエイトを占めていました。

・・・戻ってきてよかったなと思うことはありますか。

高橋：生活環境が良い点は転職先の重要な要素でした。新潟県内も視野に入れながら転職活動をした結果、業務的に理想の職場に地元で巡り合えて、一昨年入社しました。

・・・生活環境が良くなりましたか。普段の生活はどんなでしょうか。

高橋：以前と比べて、良い意味でゆとりが持てるようになりました。仕事とプライベートのメリハリが付いたという感じがあります。山菜採りに出かけたり、職場の人ともスポーツやイベントに行ったり。仕事も実生活も非常に充実しています。

・・・それはよかったですね。在学生へのメッセージをお願いします。

高橋：大学での勉強は技術職にとって必要不可欠な内容ばかりであることを痛感しています。まずは勉強をがんばってください。実社会においては技術面以外の要素も非常に重要です。体力や協調性などがこれに当てはまるでしょうか。

・・・教員にとっても力になるメッセージです。最後にこれからの抱負をお聞かせください。

高橋：今までの経験を生かして、より難しい仕事をこなしていきたいです。同時に、後輩の指導もこれからは積極的に行っていきたいと思っています。

・・・ありがとうございました。会社から近いですし、是非大学にも遊びにきてください。



株式会社トライテック
<http://www.tritek.co.jp/>

(聞き手：
情報電子工学科 教授
田村 裕)

村上教授の論文が入賞



情報電子工学科の村上肇教授が、社団法人全国通運連盟の「鉄道によるグリーン物流のための新たな推進方策」提案論文で佳作入賞しました。

特殊無線技士の資格が取得可能に

情報電子工学科に平成15年度以降に入学した学生を対象として、下記の資格が取得できるようになりました。通信関係の科目を履修し、卒業後に免許申請することが必要です。県内では、新潟大学工学部に次いで2校目となります。詳しくは学務課教務係で確認してください。

第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士

インド洋大津波災害の影響



情報電子工学科 3年
ジャヤンパット チャーミンダ ラジャパクシャ

2004年12月26日13時、一本の電話が来ました。父からでした。その電話で、私はスリランカの海が町の中に入って来た、と言う話を受けました。私は満ち潮だと思いました。その時には“津波”と言う言葉は知りませんでした。その後で2～3時間かけて国に電話をかけ直しましたが、つながりませんでした。それからテレビをつけて見た瞬間、思った以上に巨大な波が出て町の中にある建物や車や人々を押し流していくのを見て言葉に詰まりました。スリランカでは地震や台風や津波はぜんぜん経験がないので、どうすればいいのか分からなくなって困ってしまいました。

津波の被害を受けて、スリランカの死者は徐々に増えていきました。最後には4万人を超えました。やっと4日後にお父さんから電話があって、兄嫁の親戚の人たち、35人ぐらいが連絡が取れないから、みんなで探しに行く、と言うことでした。その話を聞いて、自分も国へ帰って是非手伝いたかったのですが、親は自分たちで探すから、

私には大学が休みになってから来てください、と言いました。私は休みになるまでに柏崎国際交流協会にお願いして、4万6千円の寄附を集めてもらって、それを持って3月17日にいよいよスリランカに戻りました。

私が兄嫁の実家(ハンバントタ)に行ってみた時に、ここは、それが1年前に行って海で遊んだ町なのか、と思うぐらいに壊れていました。親戚の人々が住んでいた場所も見当たりませんでした。

海の脇にある国道を走る時に、私は、1年前に建物があった場所が、いろいろな国から送られたテントばかりが並ぶ場所になっているのを見ました。雨に濡れたり、太陽に焼けたりしている生活がありました。スリランカでは、家族のメンバーが多いから一つのテントの中で10人ぐらいいるところもありました。トイレの数も少ないし、洗濯やシャワーも週に決まった時間にしかできない生活でした。病気のための薬や治療は、ほとんど外国のNGOの医者や看護婦さんに頼っていました。3ヵ月経っても、国の政府はどうすれば人々の生活が元に戻るか分からなくて困っているのを感じました。

今回、私は自然の力の怖さと破壊力の大きさを目の当たりにしてきました。私の親戚の中でも、今でも17人ぐらいが行方不明になったままです。



● インド洋大津波災害現地報告写真展が開催されました ●

6月24日(金)～26日(日)の3日間、柏崎市民プラザにおいて、インド洋大津波災害現地報告写真展が柏崎市と財団法人柏崎地域国際協会の主催で開催されました。この写真展はジャヤンパットさんが災害後に帰国した際に、現地の状況を写真に収めたもので、期間中には、被災状況を講演する時間も設けられました。



廃プラスチックからクリーンな炭化水素油を生産

物質生物システム工学科の秋元正道教授はこのほど、廃プラスチック熱分解油から塩素と窒素を同時に取り除く新しい技術を開発しました(特願 2005-1444350 号)。これまでの技術では有害な塩素と窒素が油に残ってしまい、その塩素による金属腐食や燃焼時のダイオキシンと NO_x の発生が問題となっていました。秋元教授は、廃プラスチック熱分解油を高温、高圧下、アルカリ水溶液と反応させると塩素と窒素が同時に除去できることを発見しました。廃プラスチックからクリーンな炭化水素油を生産できる、環境保全に貢献する技術です。群馬県の三峰工業(株)がこの秋元教授の技術に着目、共同で熱分解式廃プラスチック油化装置を開発し、実用化しました。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/acbhtml/html/news1.html>]

新任教員のお知らせ

4月1日付けで、新たに2名の先生をお迎えしました。



学長
布村 成具
『工学博士』
NUNOMURA, Shigetomo

- 専門：破壊力学、安全工学
- 研究テーマ：モードⅢ疲労に関する研究、微小試験片技術
- 出身高校：富山県立富山中部高等学校
- 学歴：東京工業大学工学部金属工学科。東京工業大学大学院博士課程
- 経歴：東京工業大学精密工学研究所助手、助教授、教授、カナダ国立研究所招聘研究員、総合研究館館長併任を経て平成7年本学教授就任。平成17年4月より現職。新潟工科大学、東京工業大学名誉教授。1964年俵論文賞(日本鉄鋼協会)、1983年西山記念賞(日本鉄鋼協会)、1998年日本試験機工業会特別功労賞、1999年通産大臣賞(計量功労賞)。



物質生物システム工学科 教授
齋藤 英一
『工学博士・歯学博士』
SAITOH, Eiichi

- 専門：蛋白質工学、遺伝子工学
- 研究テーマ：プロテアーゼ(蛋白質分解酵素)とプロテアーゼインヒビター(蛋白質分解酵素阻害剤)の分子生物学的研究とその応用
- 出身高校：新潟県立三条高等学校
- 学歴：新潟大学工学部応用化学科。新潟大学大学院修士課程
- 経歴：新潟県工業技術センター研究職員、日本歯科大学新潟歯学部助手、講師、助教授、ウイスコンシン大学(マディソン校)遺伝学研究所客員教授を経て平成17年本学教授就任。

オープンキャンパスのご案内

第1回

7月23日(土)

第2回

10月1日(土)

- 時間/11:30~15:30
模擬実験体験、入試ガイダンス、学食無料開放、送迎バス運行
- 送迎バス/第1回 新潟、長岡、直江津、柏崎、高崎、長野
第2回 新潟、長岡、直江津、柏崎
- 参加申し込み方法/電話・FAX・ハガキ・メール等により2日前までにお申し込みください。
〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719番地 入試広報課
TEL:0257-22-8188 ☎:0120-8188-40 FAX:0257-22-8226
E-mail:nyuushi@adm.niit.ac.jp

[関連URL http://www.niit.ac.jp/enter/open_campus/oc2005.htm]

編集後記

前号から半年以上が経ちまして、昨年度末の卒研発表会から卒業式、そして入学式、大学祭という本学の大きな流れをまとめてご報告しました。学生たちの生の声を生き生きと伝えようという編集方針、私は編集者として大いに楽しめました。座談会の学生の言葉ではありませんが、この編集の楽しさ、皆様にダイレクトに伝わりましたか(笑) 次号の企画もお楽しみに!(A.I.)

発行

新潟工科大学広報誌 第7号
平成17年7月1日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
TEL.0257-22-8111 (代表)
FAX.0257-22-8112
E-mail:soumu@adm.niit.ac.jp
URL:<http://www.niit.ac.jp>